

令和 5 年 6 月 12 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H03618

研究課題名（和文）岡松参太郎を起点とする帝国と植民地における法実務と学知の交錯

研究課題名（英文）A Study on Interchange of Legal Practice and Academic Intelligence in Empire and Colonies from the View Point of Dr. Santaro Okamatsu as the Starting Point

研究代表者

浅古 弘（Asako, Hiroshi）

早稲田大学・法学大学院（法務研究科）・名誉教授

研究者番号：90247198

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 34,890,000円

研究成果の概要（和文）：このプロジェクトでは、日本の台湾統治に深く関わった岡松参太郎を中心に、帝国日本を支えた学知である法律学と台湾・朝鮮における裁判の法実務の交錯を分析することによって、帝国日本による植民地統治の実相を明らかにした。岡松参太郎が台湾における法的伝統を近代法の枠組みの中で法制化しようとしていたこと、しかし法院は岡松参太郎が主導した旧慣調査事業を批判し、法院独自に旧慣研究を行い、そこでの成果を裁判に生かしていたこと、また岡松参太郎の民法学が東アジアの民法学に大きな影響を残していることなどを明らかにすることができた。また「岡松参太郎文書」のうち、台湾関係1931点、書簡88点、麴谷関係1点の翻刻をした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

帝国日本による台湾・朝鮮での植民地統治の歴史的評価を巡っては、様々な評価がなされている。帝国日本による植民地統治の実相を実証的に明らかにすることは、そうした評価を再検討する緒なるものと思われる。

研究成果の概要（英文）：This project clarified the reality of colonial rule by imperial Japan by analyzing the intersection between jurisprudence, the academic knowledge that supported imperial Japan, and the legal practice of courts in Taiwan and Korea, with a focus on Santaro Okamatsu, who was deeply involved in the empire and the rule of Taiwan. The study revealed the following. Santaro Okamatsu attempted to legislate the legal traditions in Taiwan within the framework of modern law. However, the court criticized Santaro Okamatsu's research project and conducted its own research on the old customs and incorporated the results of that research into the court's decision-making process. In addition, Santaro Okamatsu's civil law studies had a great influence on East Asian civil law studies.

In addition, our project reprinted 1,931 items related to Taiwan, 88 items of letters, and 1 item related to Yokoku Okamatsu among the "Okamatsu Santaro Documents."

研究分野：日本近代法制史

キーワード：植民地法制 日本法制史 訴訟記録 台湾 朝鮮 岡松参太郎 民法学 法曹

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

(1) 早稲田大学図書館に寄贈された「岡松参太郎文書」(8,579点)、「千種達夫文書」(1,282点)及び「宮内季子文書」(438点)並びに台湾に現存する日本統治時代の裁判記録を、東アジア近代法制資料として研究に供するために、適切な方法を確認し、学界共有の財産として公開利用できるように整理し、目録作成を行ってきた。「岡松参太郎文書」、「千種達夫文書」、「宮内季子文書」はすでに公開し、台湾・法務部司法官学院所蔵の日本統治期台中地方法院刑事判決原本(327冊43,888件)の目録は、画像資料に紐付けされて、国立台湾大学図書館が提供する「日治法院檔案資料庫(Taiwan Colonial Court Records Archives)」から公開されることが決定している。

(2) この作業を通して、東アジア諸国のなかで一步先んじて西欧法を受容し近代化を行った日本法が、植民地統治を通じて台湾や朝鮮の社会に持ち込まれ、あるいは日本への留学生や近代法典の編纂事業に対する日本の法整備支援を通じて、東アジア諸国の法に大きな影響を与えてきたばかりでなく、日本・台湾・朝鮮・中国・満洲の各地域の法が互いに影響しあっていたことも分かってきた。

(3) しかしながら、日本統治期の法院の民事裁判では、台湾や朝鮮に施行されなかった日本法を条理として適用することもあり、逆に日本法を排除して慣習による裁判も行われていた。台湾総督府高等法院判官姉齒松平は、岡松参太郎が主導した旧慣調査事業の旧慣調査のあり方を鋭く批判し、法院が独自に慣習研究を進めていたこと、そこでの慣習研究の成果が法院裁判に生かされていたことも分かってきた。

2. 研究の目的

本研究は、現存する日本の植民地統治関係の法制資料を学界共通の財産として広く研究者の利用に供するために「岡松参太郎文書」のうち特に歴史的価値の高い文書を翻刻刊行し、また国立台湾大学図書館「日治法院檔案資料庫」に登載されていない法院の判決原本の蒐集整理・公開のための目録編成を行うとともに、これまでに整理公開した「岡松参太郎文書」、「千種達夫文書」、「宮内季子文書」、「台中地方法院刑事判決原本目録」(平成30年公開予定)および日本・台湾・韓国に現存する近代法制資料等をもとに、帝国日本による台湾と朝鮮の植民地統治を比較検証し、帝国日本を全体として支えた学知である法律学や旧慣調査事業と法や慣習あるいは条理を法源とした法院裁判における法実務の交錯を分析することによって、応募者がこれまで進めてきた帝国日本の形成と植民地統治を実証的に研究することを継続発展させることを目的とするものである。

3. 研究の方法

(1) 本研究の目標を達成するために、「岡松参太郎と学知」班と「裁判と法実務」班の二つの研究グループを組織する。「岡松参太郎と学知」班は、岡松参太郎をはじめ植民地統治に関係した法学者の法律学が植民地統治に及ぼした影響を及ぼしたかを解明し、併せて難読である「岡松参太郎文書」の翻刻を行う。「裁判と法実務」班は、国立台湾大学図書館が公開している「日治法院檔案」データベースに収載されていない法院の裁判記録を蒐集し目録を作成して学界に紹介するとともに、法院裁判を担った法曹とその養成方法を調査し、裁判例の分析を通して植民地統治と法の適用・法源の問題を解明する。

(2) 各研究グループの基礎的な作業のもとに、海外の研究者を招聘し、定期的に「帝国と植民地法制」研究会を開催して、学知としての法学と法実務の交錯の具体像を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 日本統治時代の花蓮地方法院家時判決原本目録(8冊2067件)を点検し、公開用目録を作成した。

(2) 「岡松参太郎文書」のうち、「法律六三号問題」に関する意見書等、「殖民地ノ立法司法制度」にかかわる草案類、「蕃族調査報告書」草稿類、「台湾居留外国人ノ土地永借権」に関する意見書、旧慣調査事業に関する報告書など、台湾関係の文書の翻刻作業を進め、1931点(C1~C21,C24,C27,C30,C32~C34,C36~C39,C41,C44)の翻刻原稿(未定稿)を作成した。また、書簡88点(B2,B7,B9~B13)及び関口隆正口述「甕谷先生行状外記紫明贅語稿本」(A18)の翻刻原稿(未定稿)を作成した。

(3) 「帝国と植民地法制」研究会を開催した。

①第16回(2018年6月30日 早稲田大学)

[研究報告]

江永博「領有初期の植民地台湾における司法処分と行政処分問題—林圯埔撫墾署管内蕃地殺人事件を事例に—」

②第17回(2018年11月17日 早稲田大学)

[研究報告]

岡本真希子「植民地統治初期台湾における法院通訳－多言語社会と司法通訳の人材－」
山中至「『旧刑法』謀殺罪・故殺罪の源流について」

③第18回(2019年10月19日 早稲田大学)

[研究報告]

岸本亜季「岡松参太郎文書の翻刻作業について」

浅古 弘「司法記録の保存と公開の現状と課題」

④第19回(2019年12月21日 早稲田大学)

[研究報告]

岡松暁子「岡松甕谷の学問と生涯－岡松甕谷生誕200年によせて」

小澤隆司「法典調査会起草委員補助松波仁一郎の函館商事慣習調査について」

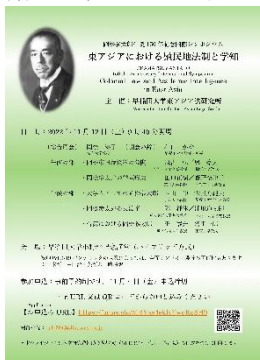
⑤第20回(2022年1月8日 早稲田大学・ハイブリッド方式)

[研究報告]

津田守(大阪大学名誉教授・名古屋外国語大学名誉教授)「現代日本における司法通訳翻訳・司法通訳翻訳人：実務家としての経験と視座」

(4) 伝統社会から近代社会成立期までの日本の法実務と法曹の活動を通史的に論じた Darryl E. Flaherty, *Public Law, Private Practice: Politics, Profit, and the Legal Profession in Nineteenth-Century Japan*, (Cambridge, Massachusetts: Harvard University Asia Center, 2013)を日本の読者に提供するため、浅古弘監訳『近代法の形成と実践－19世紀日本における在野法曹の世界(早稲田大学比較法研究所叢書46)』成文堂(2019年)を刊行した。

(5) 早稲田大学東アジア法研究所主催「岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知」を2022年11月12日(土)に早稲田大学小野梓記念講堂(ハイブリッド方式)で開催した。対面参加者51名、オンライン参加者88名



[研究報告]

- ・岡松家旧蔵資料の公開： 浅古 弘 (早稲田大学名誉教授)
コメンテーター： 呉 豪人 (輔仁大学教授)
- ・岡松参太郎の学問形成： 田口 正樹 (東京大学教授)
コメンテーター： 藤野奈津子 (千葉商科大学教授)
- ・大学人としての岡松参太郎： 西山 伸 (京都大学教授)
コメンテーター： 大日方純夫 (早稲田大学名誉教授)
- ・岡松参太郎の民法学： 鄭 鍾休 (国立全南大学名誉教授)
コメンテーター： 浦川道太郎 (早稲田大学名誉教授)
- ・台湾における岡松参太郎： 王 泰升 (国立台湾大学教授)
コメンテーター： 新田 一郎 (東京大学教授)

岡松参太郎の旧蔵資料の全容と岡松参太郎の学問形成や大学人として京都帝国大学での活躍、台湾における法的伝統を近代法の枠組みの中で法制化しようとしていたことの今日的意義、また岡松参太郎の民法学が東アジアの民法学に大きな影響を残していることなどの報告があり、新たな知見を学界に提供できた。このシンポジウムでの報告・コメントは、論文集として刊行する予定である。

(6) 国立台湾大学法律学院・法律與社会研究中心共催の国際検討会「法科大学院の導入が日本の法実務及び法律学に与えた影響」(2023年3月6日)で浅古弘・新田一郎が招待講演を行った。

(7) 裁判記録保存の調査については、司法院法官学院及び法務部最高檢察署において、特に裁判IT化時代の電磁的裁判記録の状況について詳細な説明を受け、意見交換をした。2023年6月11日開催の法制史学会第74回総会に於いて「[ミニ・シンポジウム2] 裁判記録のあり方を考える：裁判手続IT化時代の課題」において、浅古弘が「裁判のIT化と裁判記録－台湾の事例」と題する研究報告を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 7件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 浅古弘	4. 巻 7
2. 論文標題 稲門法曹物語 第三回：千種達夫	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 稲門法曹会報	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浅古弘	4. 巻 -
2. 論文標題 慣習と法：臨時台湾旧慣調査会と法院の対立	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学法学会編『早稲田大学法学会百周年記念論文集 第1巻 公法・基礎法編』成文堂	6. 最初と最後の頁 185-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石田京子	4. 巻 -
2. 論文標題 弁護士による調査と訴訟代理：大阪高等裁判所令和3年12月22日決定および最高裁判所令和4年6月27日を手掛りに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学法学会編『早稲田大学法学会百周年記念論文集 第1巻 公法・基礎法編』成文堂	6. 最初と最後の頁 467-485
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石田京子	4. 巻 -
2. 論文標題 ジェンダーの視点から見たトラブル経験	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 藤岩夫ほか編『現代日本の紛争過程と司法政策 = Disputing Process and Judicial Policy in Contemporary Japan：民事紛争全国調査2016-202』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 555-574
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田京子	4. 巻 -
2. 論文標題 専門職責任としてのジェンダー平等教育：アメリカに学ぶ段階的教育	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『民主的司法の展望 = Prospects for Democratic Justice：統治主体としての国民への期待：四宮啓先生古稀記念論文集』日本評論社	6. 最初と最後の頁 775-769
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦川道太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 高木益太郎と大正7年の自動車事故責任法案	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学法学会編『早稲田大学法学会百周年記念論文集 第2巻 民事法編』成文堂	6. 最初と最後の頁 133-152
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤哲夫	4. 巻 -
2. 論文標題 「倒産法」の基本的理念とその流路：明治期～昭和初期における実態と理念の変遷からみて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学法学会編『早稲田大学法学会百周年記念論文集 第2巻 民事法編』成文堂	6. 最初と最後の頁 453-476
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新田一郎	4. 巻 664-675
2. 論文標題 歴史と未来のはざままで（1-12）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 武道	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤野裕子	4. 巻 103
2. 論文標題 方法としての「民衆史」：サバルタン研究と「交差性」概念を手がかりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 民衆史研究	6. 最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田八千子	4. 巻 19-2
2. 論文標題 基礎法学のリアルタイム型オンライン授業について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中央ロー・ジャーナル	6. 最初と最後の頁 87-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本研	4. 巻 68
2. 論文標題 私的整理と法的倒産手続の新たな連携	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 民事訴訟雑誌	6. 最初と最後の頁 119-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本研	4. 巻 -
2. 論文標題 時期に関する非義務行為 期限前弁済 の否認における有害性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 越山和広ほか編集『手続保障論と現代民事手続法：本間靖規先生古稀祝賀』信山社	6. 最初と最後の頁 985-1010
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本研	4. 巻 69
2. 論文標題 再生計画不認可事由としての『不正の方法』 - 行為類型と行為主体の関係を中心として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 民事訴訟雑誌	6. 最初と最後の頁 25-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和仁かや	4. 巻 -
2. 論文標題 宮崎道三郎の「都加佐名義考」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学法学会編『早稲田大学法学会百周年記念論文集 第1巻 公法・基礎法編』成文堂	6. 最初と最後の頁 213-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅古弘	4. 巻 6
2. 論文標題 稲門法曹物語 第二回：渡辺道子	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 稲門法曹会報	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本真希子	4. 巻 51-2
2. 論文標題 植民地台湾における官服と法服：行政官・司法官の可視化の政治過程	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新田一郎	4. 巻 66-10
2. 論文標題 時代を踏み越える企て (特集 法制史のすすめ : 歴史から繙く法律学)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法学セミナー	6. 最初と最後の頁 6-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤野奈津子	4. 巻 31-1
2. 論文標題 スポーツと法 : 法文史料のなかの「アスリート」 (オリンピック復興運動に関する社会文化史的考察)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国府台経済研究	6. 最初と最後の頁 33-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田八千子	4. 巻 491
2. 論文標題 法哲学分野 (創刊40周年記念連載 法学教室プレイバック : あの特集,あの記事(第10回))	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法学教室	6. 最初と最後の頁 71-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅古弘	4. 巻 5
2. 論文標題 稲門法曹物語 第一回: 高木常七	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 稲門法曹会報	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田京子	4. 巻 200
2. 論文標題 これからの弁護士：司法制度改革審議会意見書から20年を回顧し、展望する；弁護士の活動領域の拡大とその課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 法の支配	6. 最初と最後の頁 53-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本真希子	4. 巻 47
2. 論文標題 明治前半期の「中国語」通訳・彭城邦貞の軌跡：日本・台湾のデジタル(数位)資料を用いて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際関係学研究（津田塾大学）	6. 最初と最後の頁 19-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 谷口眞子	4. 巻 66
2. 論文標題 一八八〇年における西周の国際情勢認識 - 「上隣邦兵備略表」の分析-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 900-883
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山田八千子	4. 巻 17-4
2. 論文標題 改正前民法第634条「修補に代わる損害賠償」の立法学的考察：「成る法」としての法の權威の視点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央ロー・ジャーナル	6. 最初と最後の頁 49-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中至	4. 巻 15
2. 論文標題 精神病離婚と裁判	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 プロジェクト研究 (早稲田大学)	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡本真希子	4. 巻 49-4
2. 論文標題 植民地統治前半期台湾における法院通訳の使用言語 - 北京官話への依存から脱却へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 225-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本真希子	4. 巻 38
2. 論文標題 越境する唐通事の後裔・鉅鹿家の軌跡 - 対外戦争と植民地統治のなかの通訳 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山史学	6. 最初と最後の頁 73-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山中至	4. 巻 -
2. 論文標題 熊本藩「結果責任主義」克服の歩み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 藩法研究会編『幕藩法の諸相：規範・訴訟・家族』汲古書院	6. 最初と最後の頁 177-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本真希子	4. 巻 48-2
2. 論文標題 植民地統治初期における台湾総督府法院の人事：判官・検察官の任用状況と流動性を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 239-275
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡本真希子	4. 巻 48-4
2. 論文標題 植民地統治初期台湾における法院通訳の人事：制度設計・任用状況・流動性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会科学	6. 最初と最後の頁 79-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新田一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 律と刑法のあいだ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 酒巻匡ほか編『井上正仁先生古稀祝賀論文集』	6. 最初と最後の頁 21-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 3件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 浅古弘
2. 発表標題 岡松家旧蔵資料の公開
3. 学会等名 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 呉豪人
2. 発表標題 政治的に正しくない岡松参太郎研究をめざそう：浅古弘報告に寄せて
3. 学会等名 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田口正樹
2. 発表標題 岡松参太郎の学問形成
3. 学会等名 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤野奈津子
2. 発表標題 岡松参太郎の学問形成：その「留学」まで
3. 学会等名 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西山伸
2. 発表標題 大学人としての岡松参太郎：創立期京都帝国大学法科大学と岡松参太郎
3. 学会等名 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大日方純夫
2. 発表標題 明治・大正期の大学人とはどのようなものであったのか
3. 学会等名 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鄭鍾休
2. 発表標題 岡松参太郎の民法学：韓国における岡松民法学の遺産
3. 学会等名 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浦川道太郎
2. 発表標題 岡松参太郎の民法学：鄭鍾休報告へのコメント
3. 学会等名 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 王泰升
2. 発表標題 台湾における岡松参太郎：政治は一時のこと、学問こそが永遠のものである
3. 学会等名 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新田一郎
2. 発表標題 歴史と政治の交点：王泰升報告へのコメント
3. 学会等名 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 浅古弘
2. 発表標題 法科大学院の導入が日本の法実務及び法律学に与えた影響
3. 学会等名 国立台湾大学法律学院・法律與社会研究中心共催国際検討会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 新田一郎
2. 発表標題 法科大学院の導入が日本の法律学に与えた影響
3. 学会等名 国立台湾大学法律学院・法律與社会研究中心共催国際検討会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 浅古弘
2. 発表標題 慣習と法：臨時臺灣舊慣調査會と法院の対立
3. 学会等名 第278回法制史学会東京部会例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅古弘
2. 発表標題 裁判のIT化と裁判記録 - 台湾の事例
3. 学会等名 法制史学会第74回総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 菅原郁夫
2. 発表標題 民事裁判のIT化と裁判記録 - 非電磁的記録から電磁的記録へ
3. 学会等名 法制史学会第74回総会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 藩法研究会編・山中至ほか翻刻校訂	4. 発行年 2022年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 356
3. 書名 熊本藩刑事判決録 人命篇	

1. 著者名 浦川 道太郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 436
3. 書名 ドイツにおける危険責任	

1. 著者名 谷口 真子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 348
3. 書名 近世社会と法規範 : 名誉・身分・実力行使	

1. 著者名 浅古弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 最高裁判所	5. 総ページ数 608
3. 書名 明治文庫解題集 (平成10年度～平成30年度)	

1. 著者名 D. Flaherty (著)・浅古 弘 (監訳)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 成文堂	5. 総ページ数 320
3. 書名 近代法の形成と実践-19世紀日本における在野法曹の歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

早稲田大学東アジア法研究所
<https://www.waseda-eals.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 哲夫 (Kato Tetsuo) (90063809)	早稲田大学・法学学術院・名誉教授 (32689)	
研究分担者	山中 至 (Yamanaka Itaru) (90167718)	熊本大学・大学院人文社会科学研究部(法)・名誉教授 (17401)	
研究分担者	新田 一郎 (Nitta Ichiro) (40208252)	東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授 (12601)	
研究分担者	藤野 裕子 (Fujino Yuko) (70386746)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	浦川 道太郎 (Urakawa Michitaro) (90063792)	早稲田大学・法学学術院・名誉教授 (32689)	
研究分担者	岡松 暁子 (Okamatsu Akiko) (40391081)	法政大学・人間環境学部・教授 (32675)	
研究分担者	和仁 かや (Wani Kaya) (90511808)	早稲田大学・法学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	小沢 隆司 (Ozawa Takashi) (10347734)	札幌学院大学・法学部・教授 (30103)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡本 真希子 (Okamoto Makiko) (30298111)	津田塾大学・学芸学部・教授 (32642)	
研究分担者	井上 正仁 (Inoue Masahito) (30009831)	東京大学・大学院法学政治学研究科（法学部）・名誉教授 (12601)	
研究分担者	藤野 奈津子 (Fujino Natsuko) (90318717)	千葉商科大学・商経学部・教授 (32504)	
研究分担者	谷口 眞子 (Taniguchi Shinko) (70581833)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	菅原 郁夫 (Sugawara Ikuo) (90162859)	早稲田大学・法学学術院（法務研究科）・教授 (32689)	
研究分担者	山田 八千子 (Yamada Yachiko) (90230490)	中央大学・法務研究科・教授 (32641)	
研究分担者	石田 京子 (Ishida Kyoko) (10453987)	早稲田大学・法学学術院（法務研究科）・教授 (32689)	
研究分担者	五島 京子 (Goto Kyoko) (20279095)	国士舘大学・法学部・教授 (32616)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	中網 栄美子 (Nakaami Emiko) (10409724)	秀明大学・学校教師学部・講師 (32513)	
研究 分担者	山本 研 (Yamamoto Ken) (90289661)	早稲田大学・法学大学院（法務研究科・法務教育研究センター）・教授 (32689)	
研究 分担者	江 秀華 (Chiang Hsiu-Hua) (30546122)	城西短期大学・ビジネス総合学科・准教授 (42410)	
研究 分担者	太田 茂 (Ota Shigeru) (00632415)	日本大学・危機管理学部・前教授 (32665)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	近藤 佳代子 (Kondo Kayoko)		
研究 協力者	陳 韻如 (Chen Yun-Ru)		
研究 協力者	江 正殷 (Chiang Chan-In)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	田山 聡美 (Tayama Satomi)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 岡松参太郎生誕150年記念国際シンポジウム：東アジアにおける植民地法制と学知	開催年 2021年～2022年
--	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関